

いた え ちやくしよくかんのんさんじゆうさんしん ず
板絵 著 色 観 音 三 十 三 身 図



△^{かろら}迦楼羅



△^{あしゅらしん}阿修羅身



△^{べんざいてん}弁財天



△^{めいしやうふめい}名称不明



△^{どうじよ}童女



△^{てんぶ}天部



△^{てんだいしやうぐんしん}天大將軍身



△^{びしやもん}毘沙門



△^{しやうおうしん}小王身



△さいかんしん宰官身



△ぼらもん婆羅門



△びくけい比丘形



△びくに比丘尼



△びくにしん比丘尼身



△ぞうちょうしん增長身

杉の一枚板に胡粉の下地を施し極彩色で、観世音菩薩が衆生済度のために三十三身を示現し、度すべきものはことごとく済度するという伝説を描いたもので、もとは33枚あったものと思われるが、現在保存されているのは15枚である。うち2枚は別々の絵をはぎ合わせたものと見られる。

年代は室町時代初期、応永13年（1405）。